

第4回

沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会

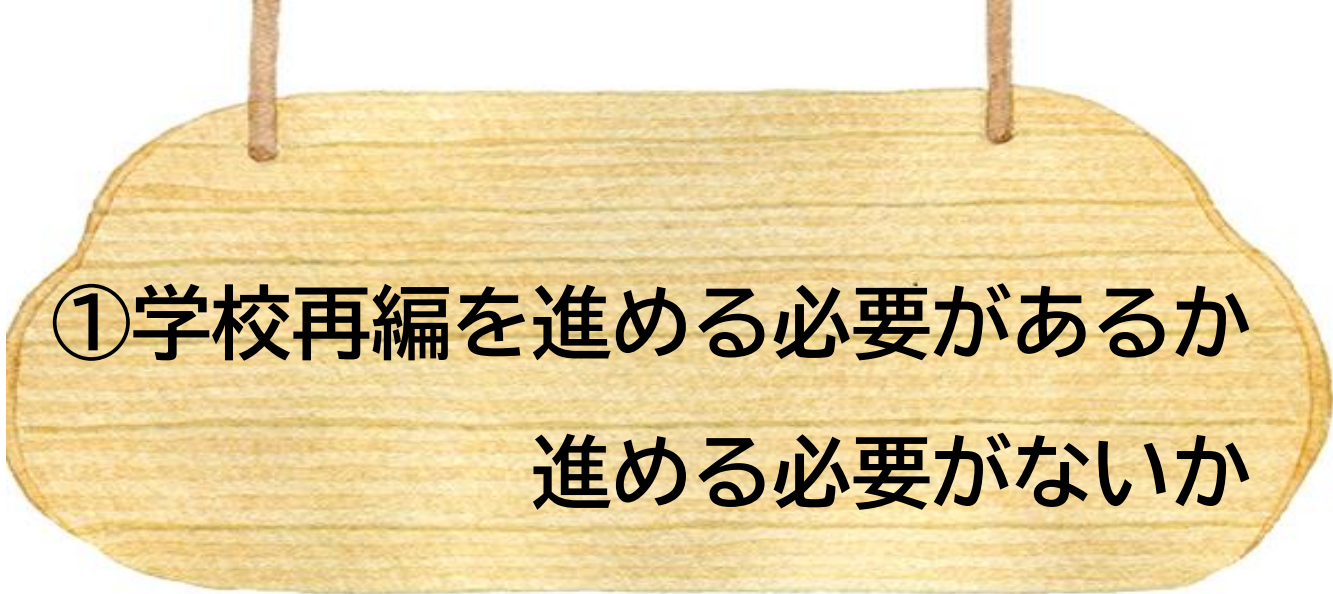
未来を担う子供たちのため、より良い学習環境を！



令和6年8月21日（水） 午後1時30分

Ⅰ はじめに

答申書イメージ案の項目ごとに振り返ります。



①学校再編を進める必要があるか
進める必要がないか

■ 5年～10年先の児童生徒数は見えている（予測可能）ので、まずは統廃合を進める必要がある。

■ 長期的・計画的に統廃合を進める必要がある。

■ 長期的とはいっても、児童生徒数が急激に減っている学校については、早いペースで進める必要がある。（10年も待てない）

■ 小学校も中学校も同様に、早めに再編を進める必要がある。



適正規模や適正配置
に関する意見が多い
ようですね。

②学校再編をどのように進めるか

- 小学校も中学校も、多くの人の触れ合いから社会性を身に付けていく必要がある。
- 地域の人口も減ってきており、地域を広く捉えて（例えば、旧白沢村、旧利根村とか関係なく）再編してほしい。
- 道路事情も数十年前から変わっており、スクールバスを視野に入れた学校区の見直しを考えても良いかもしれない。
- 防犯上の問題や熊の出没、天候など、保護者等が車で送迎することが増えており、スクールバス等でも移動を視野に統廃合を考えても良いと思う。

- 児童生徒数のみにとらわれず、沼田市らしい教育のかたちを工夫する。
- 地域や保護者に丁寧な説明をして、一体感を持って進める。
- 沼田市の良さを前面に出して、何をコンセプトに統廃合を進めるかを考える。
- 地域と連携協働し、地域とともにある学校を考える。

※第1回、第2回審議会の意見を抜粋し、一部簡単な表現に変更しています。

2 重点目標・重点施策

沼田市らしい学校（教育）の“**かたち**”は何か。
それを達成するために、具体的に“**何**”をするか。

教育 1 1

学習 7

ICT 4

育成 3

安全 4

生活 4

沼田 6

自然 5

体験 6

知る 3

誇り 3

文化 4

郷土 3

地域 13

規模 4

集団 3

一人一人 3

グローバル、英語、歴史、人材、社会、自己、自信、学ぶ、将来、義務教育学校 2

地域とともに、地域と連携、
地域と関わり、地域学習、
地域への郷土愛、地域での体験など

主軸・コンセプト

地域

共育

安全

沼田の未来を担う
子供たちのために

通学時の安全
学校生活での安全など

人と人との関わり、ICTなどの様々な工夫で
「共に」「育っていく」という意味で
「共育（きょういく）」としております。

3 適正規模と適正配置についての基本的な考え方



具体的な答申部分
ですね！

①基本的な考え方

○ 適正規模・配置の全体的な考え方について、何かご意見がありますか。

- 【規模】**
- 1 小学校、中学校ともに、集団の中で社会性を育むことが望ましい。
 - 2 地域の枠を広く捉え、統合を考える必要がある。
 - 3 児童生徒数の減少が著しい学校については、早急に統合が必要である。
 - 4 現在の出生数からみると、複数学級で一定の児童生徒数を確保した場合学校数がかなり少なくなる。
 - 5 部活の在り方や高校進学等を見据えると、中学校の規模を大きくする（生徒数を増やす）必要がある。
 - 6 クラスの人数が徐々に増えるようにしていく。

- 【配置】**
- 1 道路事情なども変わっており、スクールバスの活用を視野に統合を考える。
 - 2 小学校（特に低学年）は、体調急変などの配慮が必要（学校運営協議会意見）

※第1回から第3回までの審議会の意見を抜粋し、一部簡単な表現に変更しています。



クラス数や児童生徒数についてですね

②適正規模

(第3回審議会での委員意見から)

- 複数学級（1学年2クラス以上）が望ましい
- 沼田市における1年間の出生数が200人前後となると、
おおむね1学年で7クラス（約30人／1クラスとして算出）となり、
1学年2クラスにするならば、沼田市内3校から4校になると想定できる。
- 児童生徒数の減少が見込まれる中で、子供の人数は少ないけれども
「小中一貫校や義務教育学校」などの工夫は必要
→④そのほか望ましい視点に記載



通学時間や通学距離に関してですね

③適正配置

- 今の通学時間を越えない程度の「4 5 分」が目安としてよい。
- 通学方法別の所要時間に関するアンケートから考えると、全ての通学方法が、目安60分でカバーできるようだが、60分では大変か？
- スクールバスで60分はかなり遠く感じる。
- 参考（学校運営協議会などで課題として出された意見）
小学校（特に低学年）は、体調急変などの際の保護者の迎えなどにも留意する必要がある。

再編する際に
工夫することなどで
すね



④そのほか、望ましい視点

■ ICT の活用

さらに児童生徒数が減少した場合の工夫として、他校と一緒に授業をするなどの工夫ができればよい。

■ 義務教育学校・小中一貫校

■ 小規模特認校

（児童生徒数が減少し存続が危ぶまれる学校において、小規模の良さを生かした「特色ある学校運営」を進める場合に限り、自治体全域から児童生徒を集めることが認められている制度）